

令和8年7月17日(金) 13:30～16:30 開催

第1回ふくしま減塩推進ネットワーク会議 実施報告

主催：福島県 保健福祉部 健康づくり推進課

委託：2026年度 ふくしま「自然に健康」食環境デザイン事業 受託事業者 株式会社NTTデータ経営研究所

実施報告 | 実施概要

- 令和8年7月17日に関係者会議として、第1回ふくしま減塩推進ネットワーク会議を開催した。
- 関係者（福島食育応援企業や職能団体・組合、市町村、保健福祉事務所等）67名が参加した。

	第2回ふくしま減塩推進ネットワーク会議	
日時	令和8年7月17日（金） 13:30～16:30	
場所	ウィル福島アクティおろしまち コンベンションホールA	
参加者	67名 ー以下、内訳ー - 福島県食育応援企業：29名 - 職能団体、組合等：8名 - 市町村：24名 - 保健福祉事業所：6名	
内容	1. 開会 2. 行政説明「減塩推進に関する取組の振り返り」 3. 取組発表「ふくしま減塩アクションプロジェクト参画事業者の取組」 1. みやぎ生協・コープふくしま 2. 株式会社ツルハ 4. 取組発表「減塩に関する取組」 1. 伊達市 2. 公益社団法人福島県栄養士会 5. グループディスカッション「今後のロードマップについて」 6. 総評 福島県立医科大学 医学部循環器内科学講座 教授 石田 隆史 氏 7. 閉会	

実施報告 | 参加者アンケートの結果

- 参加者からは、多様な参加者との意見交換や情報共有ができ、有意義な会議だったとの意見が多く寄せられた。
- 一方で、情報共有の充実や交流しやすい運営、企画内容の充実を求める意見があった。

回答者数	29名（参加者64名、回答率：約45%）	
設問概要	- 基本情報 - 満足度 - 減塩アクションプロジェクトへの参画有無、参画可能な時期 - ご感想・ご要望	
結果サマリ	<u>満足度</u> 「とても満足である」：41%（12社） 「やや満足である」：59%（17社） <u>減塩アクションプロジェクトへの参画有無、参画可能な時期</u> - 参画済み：73%（8社） - 参画意向があるが参画時期未定：18%（2社） - 参画方法が分からない：9%（1社） <u>感想</u> - 市町村と意見交換ができ、有意義だった。 - 減塩推進は「塩分の可視化→気づき→減塩商品・メニューの提案→行動変容」の流れが有効であり、食品卸としても推進していきたいと感じた。 - 減塩を自然に実践できる環境が少しずつ整ってきていると感じた。 - グループディスカッションでは、多様な立場の意見を聞くことができ、視野が広がった。 - 毎回、多くの参加者と情報交換ができています。 - 毎年継続してネットワーク会議が開催されていることで、企業が組織的・計画的に取り組んでいる様子が見えてきた。 - 県や市町村による継続的な機運醸成が重要であると感じた。 - 多忙な関係者が集まる会議の運営は大変だと思うが、食環境整備の観点から非常に重要な会議であると感じた。	<u>要望事項</u> - グループディスカッションの内容を後日共有してほしい。 - ネットワークを通じて生まれた企画や事例を紹介してほしい。 - 参加者を識別しやすくする工夫（名札や座席表等）や、名刺交換しやすい運営にしてほしい。 - 参加者同士が継続的に連携できる仕組みを設けてほしい。 - マンネリ化を防ぐため、各団体の取組を体験できるような企画を実施してほしい。 - 減塩アクションプロジェクト参画事業者の進捗状況や達成度を共有し、課題を協議する機会を設けてほしい。 - 開催日程は2か月程度前までに案内してほしい。 - 減塩商品や献立等の紹介も行ってほしい。

グループディスカッション 概要

- 13グループ・260件の発言を、話題別10カテゴリーに整理した。

グループディスカッションの実施概要と整理方法

概要	会議	第1回ふくしま減塩ネットワーク会議 グループディスカッション
	グループ数	13グループ（A～M）
	テーマ	①ゴール達成に向けて各主体が担うべき取組 ②取組を進めるうえでの課題・障壁 ③課題解消に必要な連携・支援
	記録方法	グループごとに模造紙へ記載（付箋・直接記入）
	記録件数	260件（取組133／課題72／連携・支援55）
整理方法	分析の主軸	ロードマップ改訂に向けた材料とするため、 話題別（10カテゴリー） を主軸に整理 「②取組を進めるうえでの課題・障壁」で言及された課題の類型化・分析 主体別の整理
	主たる指標	言及グループ数 （13グループ中いくつかのグループが言及したか）。発言件数は補助的に併記

話題カテゴリー

- 発言内容を10の話題カテゴリーに分類し、カテゴリーごとに含める内容を定義した。

カテゴリー	詳細
商品開発・改良	減塩商品そのものの開発・改良・味の設計。だし・発酵食品・調味料代替による減塩、既存商品の減塩化
売場・見える化	店頭での訴求、売場づくり、品揃えの拡大、POP・棚配置、塩分量の可視化
啓発・情報発信	媒体・POP・SNS・TV・レシピ提供等を通じた周知。減塩の必要性やおいしさの伝達
体験・イベント	試食・食べ比べ・塩分測定会・料理教室・セミナー・フェア等、実際に体験する場づくり
教育	学校・保育所・PTAでの食育、子ども／親／その親世代へのアプローチ、世代間の波及
無関心層	健康非関心層への到達、対象の偏りの是正、届いていない層の掘り起こし
供給・流通	卸・仕入・店頭化・販路拡大など供給側の事情。メーカー→卸→小売の商流に関する課題
制度・基準	減塩の基準・認証、保険適用、店舗間の統一ルールなど、個社では動かせない制度面
連携・マッチング	主体間の連携・引き合わせ、県による橋渡し、庁内部署間・関係機関間の連携
継続の仕組み	定例化・記念日（毎月17日「減塩の日」）・定番化など、一過性で終わらせない仕掛け

議論の全体像

- 議論は「啓発」「連携」に集中し、啓発は13グループ全てが言及した。

話題カテゴリ別の言及グループ数・発言件数

話題カテゴリ	言及グループ													G数	計
啓発・情報発信	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	13	74
連携・マッチング	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	12	50
商品開発・改良	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	11	28
体験・イベント	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	10	16
教育・世代	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	9	26
売場・見える化	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	9	19
供給・流通	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	9	12
無関心層	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	8	14
継続の仕組み	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	8	13
制度・基準	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	5	7

テーマ② 課題・障壁

- ・ 課題は「認知・イメージ」に集中し、11／13グループが言及した。
- ・ 2番目以降は各4～5グループにとどまり、認知・イメージが突出している。

課題類型別の言及グループ数・発言件数と主な意見

課題類型	言及グループ	G数	件数	実際の意見一例
認知・イメージ	A B C D E F G H I J K L M	11	34	・ 減塩のネガティブイメージの払拭（H） ・ 20代～30代は減塩に興味がない（L） ・ 減塩商品がどこにあるか探せない（I）
需要が読めない	A B C D E F G H I J K L M	4	8	・ 消費者の購買意識 売れないとおいてくれない（B） ・ なかなか売れる商品ではないため、賛同いただけないケースも多い（E） ・ 商品変更（消費者）のハードル 売上げとのバランス（C）
人員・専門人材	A B C D E F G H I J K L M	5	7	・ 栄養士数が少ない。対象が病気持ち・高齢者に偏りがち（E） ・ 全ての店舗に管理栄養士がいるわけではない（J） ・ 自治体職員のみではマンパワーが限定される（K）
連携先が見つからない	A B C D E F G H I J K L M	5	7	・ 情報をとりにくい 組織ごとの壁 連携先の窓口のわかりやすさ（C） ・ 県などに、別機関の窓口としてやってほしい（D） ・ 広域連携が難しい 大体同じところで決まってしまう（M）
制度・基準	A B C D E F G H I J K L M	5	5	・ 健康・栄養指導を保険対象にする（E） ・ 医療行為にならないようなバランス どこまで求めるか（C）
対象の偏り	A B C D E F G H I J K L M	4	4	・ 住民への定着、無関心層へのアプローチ（D） ・ ターゲットの設定をどこにするか（M）
商品開発の限界	A B C D E F G H I J K L M	2	3	・ 作り手の減塩にも限界が（H） ・ 熱中症予防で塩あめ、減塩とバランスが取れない（L）
おいしさとの両立	A B C D E F G H I J K L M	1	2	・ 「おいしさそのまま」←そこなわれると好まれない（D）

意見総論

- 求められている支援は主体間の「引き合わせ」が多く、連携先の名指しから庁内の横連携まで、県には橋渡し役が期待されている。
- 一方、食環境の整備については「売れないから置けない／置かないから売れない」という同じ構図が、立場の異なる参加者から指摘された。

①

連携要望は
「引き合わせ」
に集中

連携・マッチングは12／13グループが話題に挙げ、50件中33件が今後必要な連携・支援として言及内容は窓口・引き合わせ・場の提供が中心

- 県などに、別機関の窓口としてやってほしい（D）
- 行政・企業・関連団体できるところはそれぞれちがう→うまくマッチングできれば、もっと減塩が進む（D）
- 情報をとりにくい／組織ごとの壁／連携先の窓口のわかりやすさ（C）

②

具体的な連携
先が名指しで
指定

最も多い組み合わせは企業⇔自治体（G・H・J・K・Lの5グループ）。マッチングの実務材料となり得る

- 自治体と企業が連携し、健診会場で測定会などを実施（G）
- 包括連携協定締結企業との共同啓発（J）
- 市町村・商工会・スーパーによる共同キャンペーン（L）

③

食環境整備は
売場・消費者
意識がネック

立場の異なる参加者から、売場整備に係る指摘が挙げられた

- なかなか売れる商品ではないため、賛同いただけないケースも多い（E・食品卸売業）
- 消費者の購買意識 売れないとおいてくれない（B・企業）
- スーパーになかなか売ってなく、「減塩商品」を手に取りやすい環境の推進が必要（B・行政）

④

関係機関の横
の連携

行政と一括りにせず、関係機関・庁内の横連携の不足が課題に挙げられた

- 課題の共有／教育・農政・観光・商工との連携（B）
- 関係機関・関係部署間の目標・方向性の共有（K）

当日写真 1/5

▼グループディスカッション①



▼グループディスカッション②



▼総評 石田 隆史 氏



▼取組発表 みやぎ生協・コープふくしま



▼取組発表 株式会社ツルハ



▼取組発表 伊達市

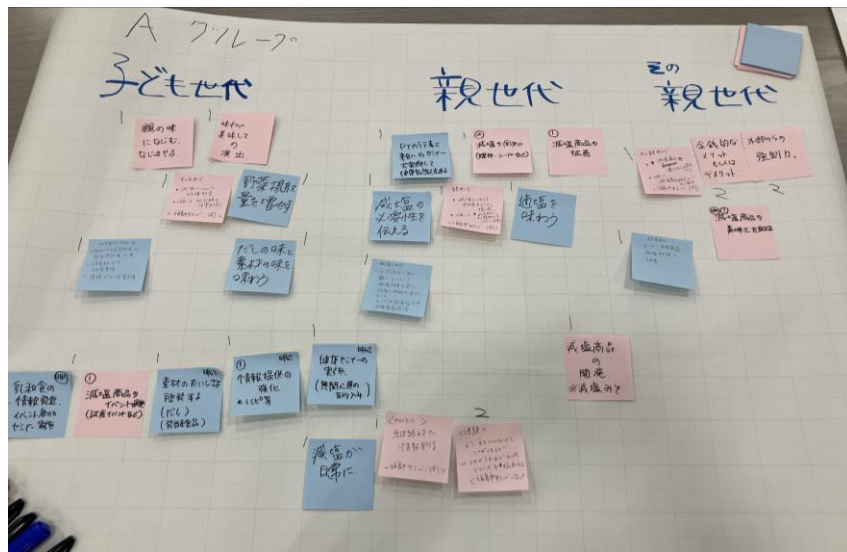


▼取組発表 公益社団法人福島県栄養士会

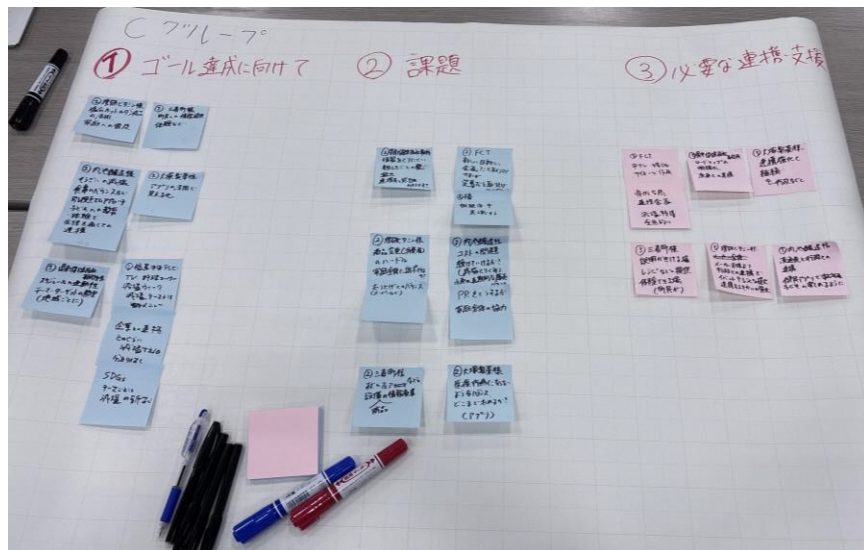


当日写真 2/5 グループディスカッションの内容

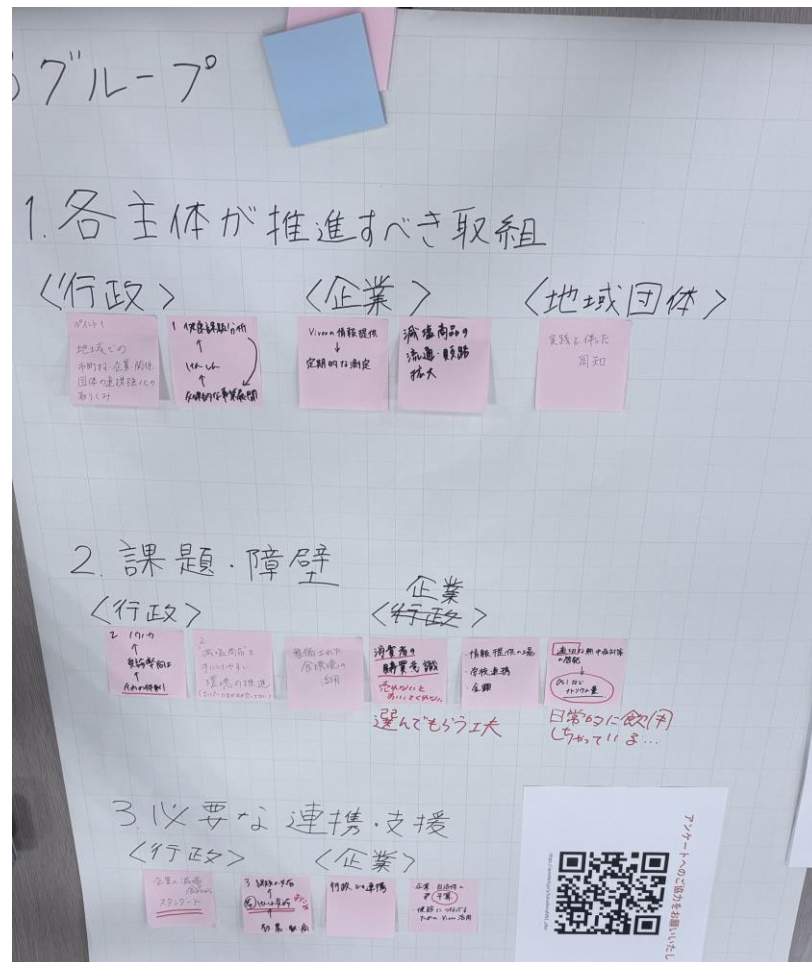
▼Aグループ



▼Cグループ

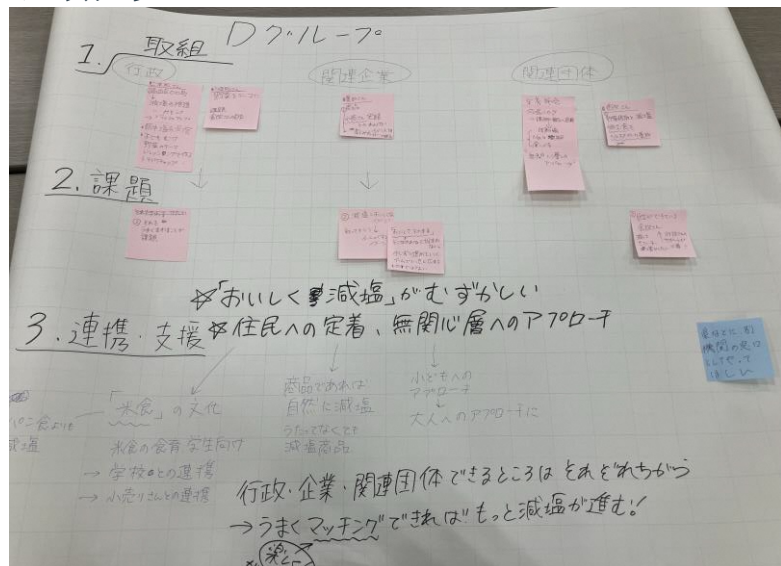


▼Bグループ

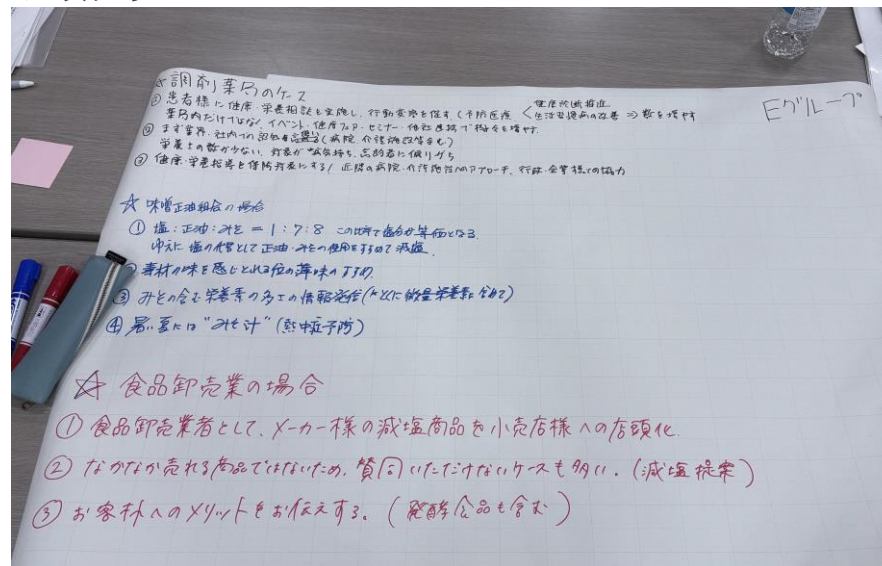


当日写真 3/5 グループディスカッションの内容

▼Dグループ



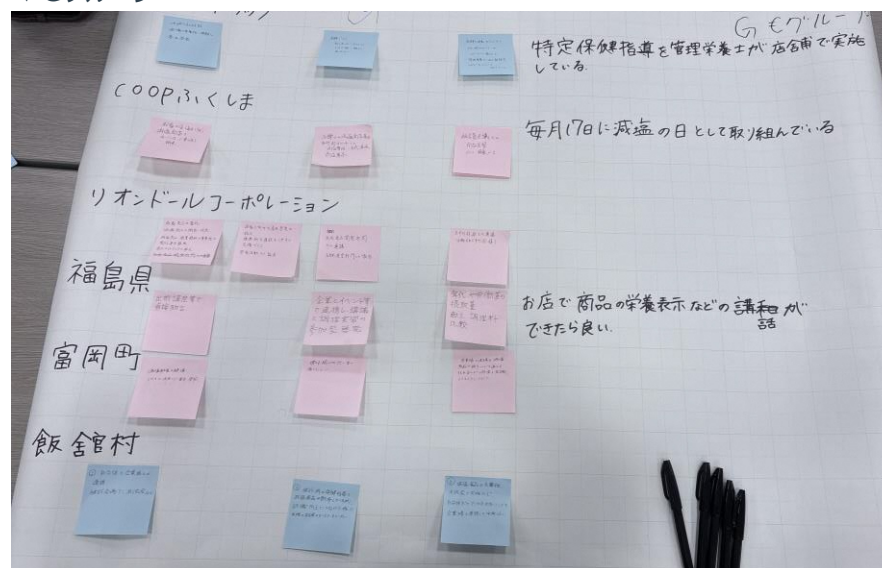
▼Eグループ



▼Fグループ

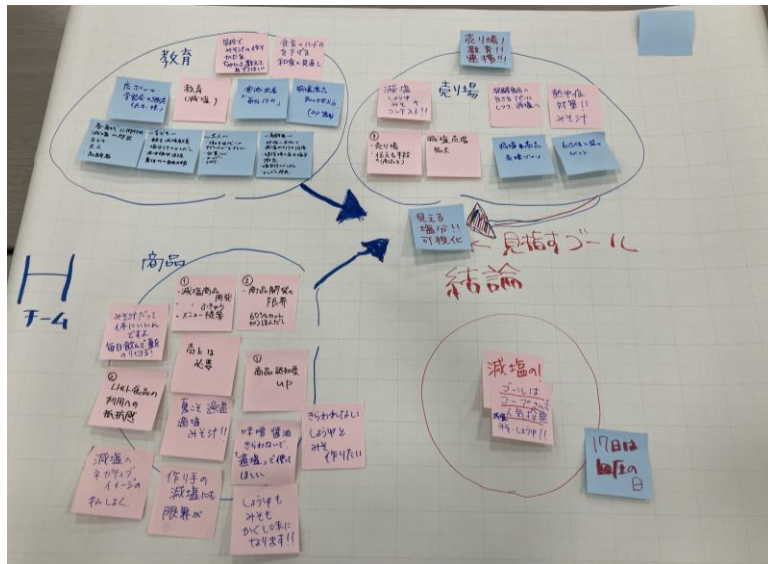


▼Gグループ

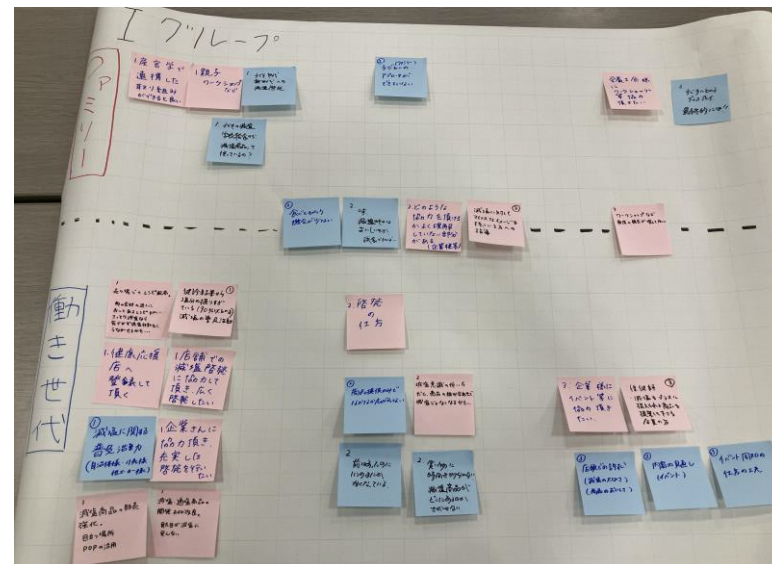


当日写真 4/5 グループディスカッションの内容

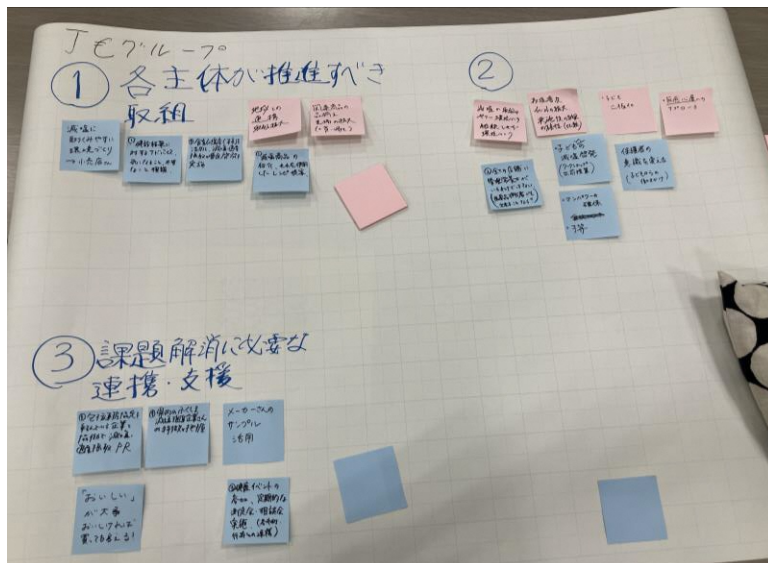
▼Hグループ



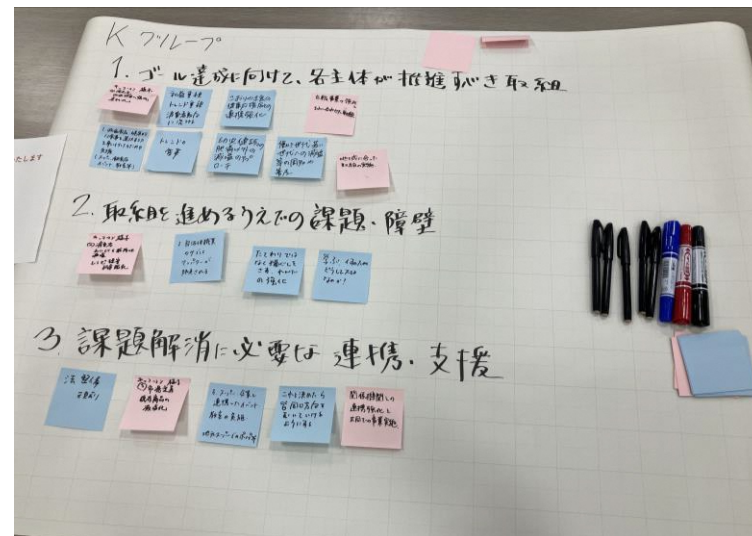
▼Iグループ



▼Jグループ



▼Kグループ



当日写真 5/5 グループディスカッションの内容

▼Lグループ

＜県＞

＜市町村＞

＜企業＞

★ 今後できそうなこと

★ 課題

県: 成果・課題と今後の課題について

市町村: 減塩の教育体験してもらう県、企業との連携

企業: 減塩の教育体験してもらう県、企業との連携

今後できそうなこと: 減塩商品の販売、減塩商品の販売、減塩商品の販売

課題: 減塩商品の販売、減塩商品の販売、減塩商品の販売

▼Mグループ

Mグループ

1. 目標達成に向けて、各主体が推進すべき取組

行政: あらゆる年代に適切なアプローチ→特に若い世代

薬局: 減塩商品の紹介

メーカー: 食べ比べる機会を増やす

2. 取り組みを進めるうえでの課題・障壁

・住民の方は減塩に関する知識がない

・薬を飲んでいるから食べ物には好き嫌い

・ターゲットの設定をどこにするか

・子どもの方が興味を覚える感じがする、先に教育

・減塩に効果的100%イメージがもたれにくい

・しょうゆは減塩でも売れるようにしたい

・広域連携が難しい

⇒ 全体同じ所で決まってしまう

3. 課題解消に必要な連携・支援

・広域で情報共有

・マスメディアとの連携

・インフルエンサーによる啓発

⇒ 案件依頼とか

・学校関係者と連携

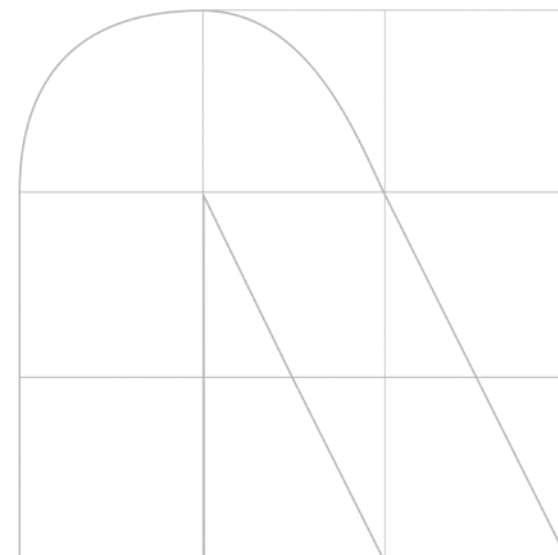
・食育

・子どもから大人へ普及

(敬老の日、父の日、母の日、バレンタイン)

第1回ふくしま減塩推進ネットワーク会議 集計結果

参加者アンケート



アンケート集計結果 1/5 : サマリ

- 参加者からは、多様な参加者との意見交換や情報共有ができ、有意義な会議だったとの意見が多く寄せられた。
- 一方で、情報共有の充実や交流しやすい運営、企画内容の充実を求める意見があった。

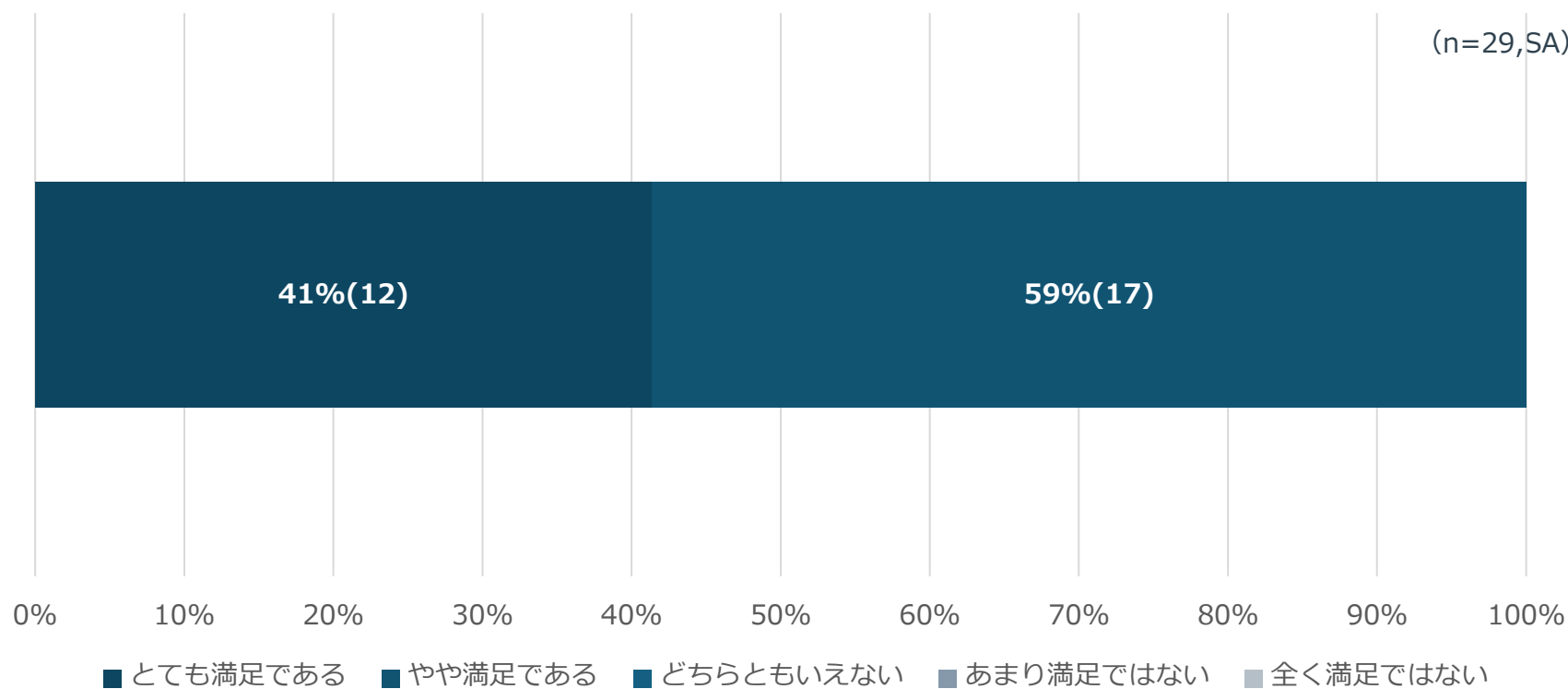
回答者数	29名（参加者64名、回答率：約45%）
設問概要	- 基本情報 - 満足度 - 減塩アクションプロジェクトへの参画有無、参画可能な時期 - ご感想・ご要望
結果サマリ	<u>満足度</u> 「とても満足である」：41%（12社） 「やや満足である」：59%（17社） <u>減塩アクションプロジェクトへの参画有無、参画可能な時期</u> - 参画済み：73%（8社） - 参画意向があるが参画時期未定：18%（2社） - 参画方法が分からない：9%（1社） <u>感想</u> - 市町村と意見交換ができ、有意義だった。 - 減塩推進は「塩分の可視化→気づき→減塩商品・メニューの提案→行動変容」の流れが有効であり、食品卸としても推進していきたいと感じた。 - 減塩を自然に実践できる環境が少しずつ整ってきていると感じた。 - グループディスカッションでは、多様な立場の意見を聞くことができ、視野が広がった。 - 毎回、多くの参加者と情報交換ができています。 - 毎年継続してネットワーク会議が開催されていることで、企業が組織的・計画的に取り組んでいる様子がうかがえた。 - 県や市町村による継続的な機運醸成が重要であると感じた。 - 多忙な関係者が集まる会議の運営は大変だと思うが、食環境整備の観点から非常に重要な会議であると感じた。 <u>要望事項</u> - グループディスカッションの内容を後日共有してほしい。 - ネットワークを通じて生まれた企画や事例を紹介してほしい。 - 参加者を識別しやすくする工夫（名札や座席表等）や、名刺交換しやすい運営にしてほしい。 - 参加者同士が継続的に連携できる仕組みを設けてほしい。 - マンネリ化を防ぐため、各団体の取組を体験できるような企画を実施してほしい。 - 減塩アクションプロジェクト参画事業者の進捗状況や達成度を共有し、課題を協議する機会を設けてほしい。 - 開催日程は2か月程度前までに案内してほしい。 - 減塩商品や献立等の紹介も行ってほしい。

アンケート集計結果 2/5 : 満足度

- 「とても満足である」が41%（12社）、「やや満足である」が59%（17社）であり、回答者全てが満足度の高い結果となった。

Q. 満足度を教えてください。

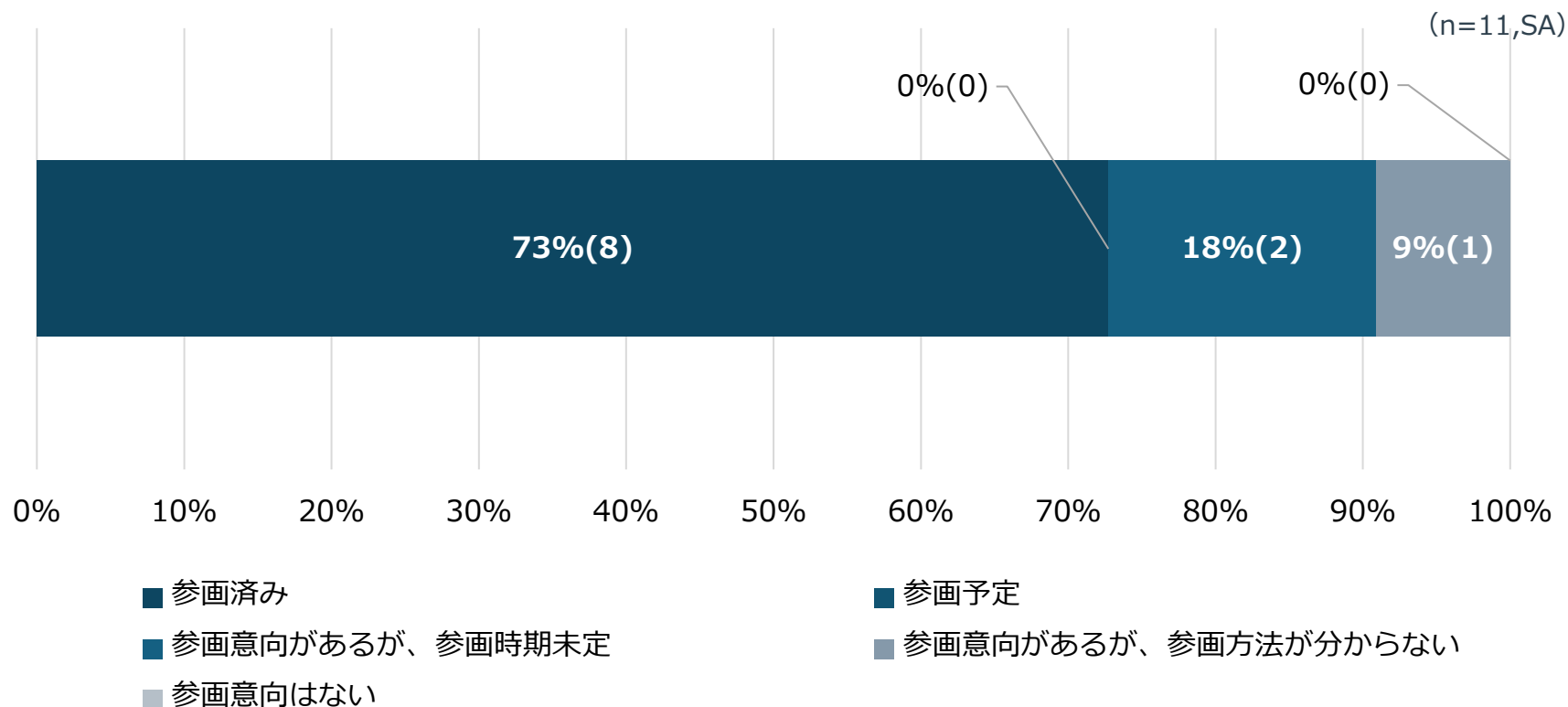
(n=29, SA)



アンケート集計結果 3/5 : 減塩アクションプロジェクトへの参画意向

- 減塩アクションプロジェクトへの参画意向は、参画済みが73%（8社）、参画意向があるが参画時期未定が18%（2社）、参画方法が分からないが9%（1社）であった。
- 参画時期未定の理由としては「他県への参画も必要となる可能性がある」と回答があった。

Q. 減塩アクションプロジェクトへの参画意向を教えてください。



アンケート集計結果 4/5 : 感想

- 視野が広がった、減塩を推進していきたい等、会議が有意義であったという意見をいただいた。
- 意見交換ができて良かった等、団体間のネットワーク強化にも繋がったと考えられる。

Q. 全体を通してのご意見・ご要望がありましたら、ご回答ください。

【ご感想】

- 減塩を自然とおこなえる環境が少しずつ少しずつ整ってきていると発表を聞いて思いました。
- 減塩推進には、塩分の可視化→気づき→減塩商品、メニューの提案→行動変容 の流れがよいと感じている。食品卸としてしっかりと推進していきたい。
- グループ内では、途中退席される方も複数いらして、積極的に活動してくださっている業務多忙な様々な業界の構成機関の方々を集めて開催される今回のような会議を開催・運営されることは大変かと感じましたが、食環境整備の面ではとても重要な会議だと思います。今後ともよろしくお願いいたします。
- 参加企業 市町村と意見交換ができてよかった
- 毎年継続して、県が本ネットワーク会議を開催することを通して、企業側も組織的・計画的に取り組んで下さっている様子が伺えた。県や市町村も本ネットワーク会議の開催や、減塩商品を紹介するなど、社会全体で取組む機運醸成を継続していくことが重要であると感じました。
- グループディスカッションでは、多様な立場からの意見を聞け、視野が広がった。今後も同様の機会を設けてほしい。

アンケート集計結果 5/5 : 要望

- 各団体の取組や、減塩商品や献立の紹介、参画事業者の課題の共有といった新しい内容の要望があった。
- 日程の連絡や名刺交換したい企業が見つけれなかったなど、運営についてのご意見があった。

Q. 全体を通してのご意見・ご要望がありましたら、ご回答ください。

【ご要望】

- ネットワークを通じて生じた企画や、事例があればご紹介お願いします。
- なんとなくマンネリ感を感じる。各団体の取り組みを実際に体験してみたいと思った。
- 減塩商品、献立等の紹介もあればと。
- 今回初めての参加だったため勝手がわからず、名刺交換したいと思っていた企業さんがどこにいるのかわからず（名札をしていない方も多かった、していてもみえなかった）、終了後の名刺交換時にはもう帰ってしまわれて思うように情報交換できませんでした。
- 毎回、多くの方と情報交換ができるので参加させていただいています。業務の調整もあることから、日程は早めに（2カ月前程度）周知いただけると助かります。
- 減塩アクションプロジェクト参画事業者様の進捗状況や達成度なども共有し、課題等を協議できるとよいのではないのでしょうか。
- グループディスカッションの情報をまとめて共有いただきたい。
- グループワークの内容等が参加者等で共有後(後日共有できると伺っています)、見える形での連携を希望します。
- 名刺交換ですが、タイミング的に帰られてしまう方がいることと、移動されてしまうと誰が誰なのかわからなくなってしまうのが毎回残念です。社員証を凝視するわけにもいかず、名簿の座席表以外で参加者を判別できる方法があれば良いのですが。ご検討いただけるとありがたいです。



Lighting the way
to a brighter society